



2007
名古屋国際音楽祭
30th Nagoya International Music Festival
30th Anniversary

人間の声が、かくも感動的であるとは! コバケンのあふれんばかりの情熱と人類愛が込められた人間賛歌

“歌”に対する思い入れの一人倍強い指揮者・小林研一郎が最も得意とするレパートリーの一つがこの「カルミナ・ブラーナ」。素朴なエネルギーとすばらしい魅力にあふれた音楽は小林研一郎の雄弁な表現力でさらに輝きを増す。大編成のオーケストラ、最高の声楽陣、全国トップレベルの合唱が繰り広げる熱気と迫力が、絶大な人間賛歌となり最高のクライマックスを期待させる。

前半は、三重県出身、期待の新星、2005年日本音楽コンクール優勝・植村太郎が登場。音楽祭デビューとしてメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を演奏する。

ORFF CARMINA BURANA

オルフ：カルミナ・ブラーナ

19世紀初頭、ドイツのボイレン修道院の図書室から古い歌集が発見された。その中の歌は約300編にのぼり、ラテン語、古イタリア語、中高ドイツ語、古フランス語などで書かれていた。歌詞の内容は若者の怒りや恋愛の歌、酒や性、パロディなどの世俗的なものが多く、おそらくこの修道院を訪れた放浪僧、吟遊詩人らによるものと考えられる。作曲家カール・オルフが、この詩歌集を台本に、グレゴリオ聖歌、東洋的旋律、バイエルン民謡などを自由に用い、執拗なまでのリズムの繰り返しや、単純明快な旋律、原色的なオーケストレーション、強烈な大音響などを取り混ぜ、素朴なエネルギーと素晴らしい魅力にあふれた音楽を作り出した。それは絶大な人間賛歌として我々に伝わってくる。



指揮：小林 研一郎

東京芸術大学作曲科、指揮科の両科を卒業。名古屋フィル桂冠指揮者、チェコ・フィル常任客演指揮者ほか国内外の多くのオーケストラのポジションを歴任。東京芸術大学指揮科教授、東京音楽大学客員教授。2002年「プラハの春音楽祭」で、東洋人として初めてチェコ・フィルを指揮し、日本人初の快挙として注目される。06年は日本フィルのヨーロッパ公演や、ハンガリー国立フィルの日本公演を指揮するなど、国内外のオーケストラへの客演も数多く、現在最も活躍し注目されている指揮者である。



ヴァイオリン：植村 太郎

1984年三重県に生まれる。名古屋市立菊里高等学校音楽科卒業、06年桐朋学園大学を主席で卒業。現在桐朋学園大学研究科に在籍。桐朋学園在学中は、桐朋学園音楽部門特別奨学金を授与され、同大学オーケストラのコンサートマスターを務める。宮崎国際音楽祭、小澤塾オペラプロジェクト、チェコでプラハ室内管弦楽団との共演、同地でのリサイタルなど、国内外で積極的な活動を行い、高い評価を受けている。

ソプラノ：大島 洋子

東京芸術大学卒業。同大学院修了。文化庁オペラ研修所修了。1975年第44回日本音楽コンクール第3位入賞。79年秋から文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノに留学。天性の美声を發揮するモーツァルトのオペラをはじめ、日本語作品における歌唱の確かさで絶賛されている。89年ジロー・オペラ賞受賞。二期会会員。

テノール：五郎部 俊朗

1986年渡伊、ロッシェニ国際オペラ・コンクール入賞、85年「音楽現代」優秀賞受賞、第19回ジロー・オペラ賞新人賞受賞はじめ数多くの賞を受賞。90年帰国。オペラ、リサイタル、録音などで活躍。特にロッシェニやモーツァルトの作品を得意とするレジェーロ・テノールで、軽やかな高音は独特な魅力を醸し出している。藤原歌劇団団員。

バリトン：大島 幾雄

桐朋学園大学卒業。文化庁オペラ研修所修了。第7回ジロー・オペラ賞を受賞。1979年より文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノに留学。早くから逸材として注目を浴び、数々のオペラに出演。レパートリーの広さ、硬軟とりまぜた歌唱力には抜きんできたものがある。二期会会員。



岡崎混声合唱団 岡崎高校コーラス部

合唱指導：近藤恵子

岡崎高校コーラス部は、1949年、愛知県立岡崎高校で結成。68年近藤恵子教諭着任後、全国有数の合唱団として実力を伸ばしてきた。岡崎混声合唱団は、岡崎高校コーラス部の卒業生が中心となり79年に設立。両団体共に、近藤恵子教諭の指導の元、多数のコンクール受賞歴を持つ。05年には、ゲルハルト・ボッセ指揮によるベートーベン交響曲第九番の合唱を担当し、絶大な喝采を受ける。



多治見少年少女合唱団

合唱指導：柘植洋子

1973年、岐阜県多治見市を拠点に発足。田中信昭（東京混声合唱団桂冠指揮者）を音楽監督に、国内外での演奏活動・録音活動をはじめ、委嘱作品の演奏など、地方都市の少年少女合唱団の中でも突出した存在として注目を集めている。

2006年全日本合唱コンクールに中部地区代表として出場した岡崎高校コーラス部と岡崎混声合唱団がそれぞれ高校の部、一般の部で金賞を受賞しました。さらに岡崎混声合唱団は文部科学大臣賞を併せて受賞し全国の合唱団の頂点に立ちました。また多治見少年少女合唱団も2006年10月の定期演奏会で児童合唱のイメージを一新させる演奏を披露。合唱が大活躍する「カルミナ・ブラーナ」では3団体の快演が大いに期待されます。

※入場料にはすべて消費税が含まれております。※プログラム内容、出演者等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。※未就学児童のご入場は同伴の場合でもお断り致します。